

8-1			
主題	養護老人ホームが地域貢献活動を通じて 生き甲斐支援と認知度向上を目指す取り組みについて		
副題	地域の理解と社会参加の実践		
キーワード1	地域貢献	キーワード2	生き甲斐支援
		研究(実践)期間	9ヶ月
法人名	社会福祉法人 安立園		
事業所名	安立園 養護老人ホーム		
発表者(職種)	幡野光希(支援員)、荒川俊一(副主任)		
共同研究(実践)者	なし		
電話	042-368-7211	FAX	042-334-6352
今回発表の 事業所や サービスの 紹介	安立園は府中市に所在し、養護・特養・ショート・居宅介護・地域包括と、平成27年4月開設のサ高住「さんぽ道」などの他に、保育園も運営している総合施設です。部署間交流を積極的に行っており、“芽生えてふれあい、老いて安らぎ”をテーマに、0歳から100歳までの方が元気に過ごされています。		

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

社会福祉法改正に伴い、社会福祉法人に求められる役割の一つに、地域における公益的取り組みの実施が明示されている。

そうした背景において、養護老人ホーム(以下、養護)では、そのあり方について検討しているところであるが、現在養護では、平成18年の老人福祉法の改正から10年が経過し、複雑多岐にわたる対象者が入所している状況にある。当施設については、自立支援を目的とした自主活動を中心に、防災応援隊やおそうじ隊など、施設内の活動を盛んに行ってきた。その中で、当施設の事業計画において、「施設内だけでなく、地域との交流などの幅広い活動」を重要視しており、施設内の取り組みを園外に展開していく必要がある。

こうした背景から、養護が地域に目を向けて地域貢献活動を実施する中で、入所者の生き甲斐支援と養護の認知度を高めたいという思いから今発表に至った。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

養護は、複雑多岐にわたるニーズを併せ持つ入所者の“セーフティーネット”機能として、長い歴史の中で処遇を継続してきた。さらに、介護ニーズを併せ持つ介護保険対象者の入所が増加している中で、養護ではADLの低下防止が重点課題となっており、介護予防がとても重要となっている。

その中で、入所者主体の介護予防として地域貢献活動を取り組むことで、入所者の生き甲斐支援に結び付け、人生の活力を見出してもらう。さらに園外活動をすることで、地域とのつながりを持つ役割も担うことができると考えている。

また、市から福祉避難所の協定を受けていることもあり、防災活動を通じて地域に養護の存在を打ち出し、その必要性を伝えたい。防災面から養護の役割を確立することで、養護の課題である「地域の理解」を向上できるのではないかと考えている。

《3. 具体的な取り組みの内容》

①入所者による道路清掃活動

- ・実施場所や内容の検討、物品準備
- 法人敷地前歩道のゴミ拾い等
- いつでも誰でも参加できるようにする
- ゴミ袋、軍手、ほうき、ちりとり、ゴミばさみ、参加者の水分補給用の麦茶など
- ・参加した入所者へアンケートを実施

②防災体験会の実施

- ・内容の検討
- 毎月実施している施設防災訓練において、地域貢献の一環として近隣住民の参加が可能となる内容を検討（保育園合同）
- ・近隣住民（隣接マンション）へ告知
- マンション管理者へ告知の貼紙を依頼
- ・実施準備
- 施設敷地内に起震車・煙体験ハウス・水消火器を配置（行政協力）
- ・体験会参加後カンパ配布、一般参加者へアンケートを実施

《4. 取り組みの結果》

①道路清掃について

入所者のうち、約 3 割の方が参加しており、車椅子の方も職員と一緒に活動される。

参加した入所者からは、「自分たちの町がきれいになることは嬉しいことだ」「これからも続けて、ごみを無くしたい」などの感想があがった。さらに地域の方からも声をかけられるきっかけとなり、地域と入所者双方に有益な活動となることが分かった。

②防災体験会について

- ・一般参加者：13 名、保育園児：35 名
- 一般参加者のうち、アンケートの回答者は 10 名で、総合評価の平均は、5 点満点中 4.7 点だった。

「今後も施設内の行事等に参加していただけますか」の問いに対しては、10 名全員が「参加したい」との回答であり、自助・共助の実践となれたとともに、今後の地域交流にも期待が持てる結果となった。

《5. 考察、まとめ》

今回行った取り組みは、養護の役割を地域に認知させる足がかりに過ぎず、今後更なる発展が必須と考える。しかしながら、活動による入所者の活力向上については、高い効果が期待できた。

今後の展開として、具体的な地域のニーズを把握するために、社会福祉協議会や包括支援センターが開催する地域懇談会などに参加し、“養護だからできる”地域貢献活動があることを認識してもらうためにも、積極的に取り組んでいきたい。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究発表を行うにあたり、ご本人に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

- ・「東京都における社会福祉法人の連携による社会貢献事業について 中間のまとめ」
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
社会貢献事業検討委員会
- ・「養護老人ホーム・軽費老人ホームの今後のあり方も含めた社会福祉法人の新たな役割に関する調査研究事業 報告書」
一般財団法人日本総合研究所
- ・「養護老人ホームにおける触法高齢者受け入れの実態調査とその背景から見える今後の役割について」
アクティブ福祉 in 東京 '15 発表抄録
安立園養護老人ホーム

《8. 提案と発信》

養護は、今後もセーフティーネットとしての役割を果たしつつ、入所者の役割や居場所を自身で見つけ出す支援の継続とともに、地域に留まらず、更なる発展を遂げるように活動を続けていきたい。